

第459回鉄鋼流通問題懇談会

2022年10月26日(水) 15:00

茅場町「鉄鋼会館9階」

議題

1. 配布資料説明(全鉄連)

2. 全鉄連情勢報告

(1) 地区の状況

○東京、大阪、新潟、石川地区概況報告

(2) その他地区の概況

○鉄流懇10月例会で発表の各地区業況アンケート結果

(3) 総括：阪上全鉄連会長

○次回以降会議予定

2023年1月 日() 14:30～

於：

3. 意見交換

4. 経済産業省挨拶

5. 鉄流懇会長挨拶

6. その他

鉄鋼流通問題懇談会 品種別動向について（2022年10月）

発表項目	鋼管	薄板	厚板	棒鋼・形鋼
<p>1. 懸動向 (備考)</p> <p>(店売り分野)</p> <p>大型建築案件の納期後倒し及び、中小案件着工減 少も依然継続、特約店再販を主とする荷動き全般は 低調が続く。在庫も増加傾向。一方で販売店は再販 価格の転嫁に注力している。</p>	<p>伊藤忠丸紅鉄鋼</p> <p><建設・土木>8月の新設住宅着工戸数は、前年同月比4.6%増の7.8万 戸で4カ月ぶりの増加。一方10月新設住宅建設物の着工総戸数は370 万戸と前年同月比33.5%増で3カ月連続の増加。倉庫、工場、事務所 向けの増加も大きい。全建築物の着工総戸数は1042万戸と前年同月比11.5% 増となった。</p> <p><自動車>8月の国内生産台数は、前年同月比22.3%増の55万台だっ た。半導体等のサプライチェーン全体の影響が大きいとされており、計画下方修 正が続いている。先行きは不透明。</p> <p><建設>8月の建設機械出荷金額は、前年8.5%増の806億円、外需 34.8%増の1,809億円となり、外需は22カ月連続の増加となった。 総合計でも25.4%増の2,616億円となり、22カ月連続の増加となっ ている。</p> <p><造船>8月の船体受注・造船受注は、受注3隻、起工17 隻、竣工15隻、竣工船舶668隻(前年同月比28.4% 増)であった。</p>	<p>岡谷鋼機</p> <p>2022年8月末の薄板3品在庫については、446.6万トン、(先月 比+9.6万トン)であった。内訳としては、メーカー在庫が191.2 万トン(先月比+8.3万トン) 問屋在庫が、97.5万トン(先月比 +0.9万トン)、コイルセンター在庫が、158万トン(先月比+0.4 万トン)であった。</p> <p>品別別では熱延が223.4万トン(先月比+5.8万トン)、冷延が 95.8万トン(先月比+1.3万トン)、また、表面処理鋼板が、127.4 万トン(先月比+2.5万トン)であった。</p> <p>8月は例年夏季休暇の影響で、在庫が大幅に増加する傾向にあ るが、本年度は増加幅が例年に比較すると少なかつた。 サプライチェーンの回復により需要が回復基調にあることや、 メーカーの生産調整の影響によるものとみられる。</p>	<p>J F E 商事</p> <p>2022年8月末の全国厚中板在庫は475千トン(前月比+1.7%、前 年同期比+0.4%)。同月は稼働日が少なく、かつ荷動きは低調、加 えてメーカーの納期遅滞が重なり在庫量は上昇した(12 カ月連 続の増加)。在庫率は31.7%(前月比+40ポイント)と出荷量減少 を背景に300%を上回った。進捗向けは受注堅調も、諸部品ネ ック(エンジン、オペレーターシート等)、サプライヤー能力オ ーバーにより依然 生産計画に対して未達の状況が続いている。建 築は大型案件増加に加え、中小案件も回復が続いている。建 造は人手不足により生産能力が限られており売価シヤードに対して仕 事が回ってきていない。補修案件も需要は安定しているが凶 運は継続中。各分野とも仕替需要はあるが、部品調達や人 手不足がネックとなり、本格的な回復には至っていない。</p>	<p>兼松トレーディング</p> <p>棒鋼 足下の引き合いが弱く、荷動き低調。ゼネラルは、2022年7 月の価格の動向に注目し、当用買いに徹し、様子見状態。ゼネ ラルなどの需要家からの値下げ圧力が強まった。電気料金のな どが見えてくる事に加え、主原料の鉄スクラップ、電気料金のな どの生産コストの上昇は避けられない為、メーカーの売り値は、崩 れていない。</p> <p>形鋼 足下の荷動きは、低調ながらも、一次加工は、忙しい 状況。市中在庫は、低い。特にあり一部抜付け材も散見され る。市況は、強基調ながら横ばいにて、各メーカーのローは、下 強気の販売姿勢に変化が無いことから、踏ん張っている状 況。</p>
<p>2. 需要産業動向</p>	<p><建築・土木>8月の新設住宅着工戸数は、前年同月比4.6%増の7.8万 戸で4カ月ぶりの増加。一方10月新設住宅建設物の着工総戸数は370 万戸と前年同月比33.5%増で3カ月連続の増加。倉庫、工場、事務所 向けの増加も大きい。全建築物の着工総戸数は1042万戸と前年同月比11.5% 増となった。</p> <p><自動車>8月の国内生産台数は、前年同月比22.3%増の55万台だっ た。半導体等のサプライチェーン全体の影響が大きいとされており、計画下方修 正が続いている。先行きは不透明。</p> <p><建設>8月の建設機械出荷金額は、前年8.5%増の806億円、外需 34.8%増の1,809億円となり、外需は22カ月連続の増加となった。 総合計でも25.4%増の2,616億円となり、22カ月連続の増加となっ ている。</p> <p><造船>8月の船体受注・造船受注は、受注3隻、起工17 隻、竣工15隻、竣工船舶668隻(前年同月比28.4% 増)であった。</p>	<p>2022年8月末の厚中板在庫は475千トン(前月比+1.7%、前 年同期比+0.4%)。同月は稼働日が少なく、かつ荷動きは低調、加 えてメーカーの納期遅滞が重なり在庫量は上昇した(12 カ月連 続の増加)。在庫率は31.7%(前月比+40ポイント)と出荷量減少 を背景に300%を上回った。進捗向けは受注堅調も、諸部品ネ ック(エンジン、オペレーターシート等)、サプライヤー能力オ ーバーにより依然 生産計画に対して未達の状況が続いている。建 築は大型案件増加に加え、中小案件も回復が続いている。建 造は人手不足により生産能力が限られており売価シヤードに対して仕 事が回ってきていない。補修案件も需要は安定しているが凶 運は継続中。各分野とも仕替需要はあるが、部品調達や人 手不足がネックとなり、本格的な回復には至っていない。</p>	<p>2022年8月の輸入通関実績は31千トン(前月比+9.6%、+2カ 月連続の増加)。韓国が30千トン(同+8.3%)、中国が0.1 千トン、台湾が1.4千トン。22年8月の鉄鋼輸出実績は 231千トン(前月比+5.2%、+2か月連続の減少)。台湾 11 千トン(同+68%)、やタイ8千トン(同+42%)で増加したが、 主力の韓国69千トン(同+20%)や中国61千トン(同 +2.7%)の減少が大きく影響した。前年同月比では +4.7%となった。</p>	<p>8月の建築着工統計による全建築物の総着工床面積は、前 年同月比9.2%増の1042万㎡。建築主別にみると公共向け は、32.9%増の32万㎡で2ヶ月連続の増加。民間向けは 11.5%増の1010万㎡で3ヶ月連続の増加。 構造別では、S造が前月比19.5%減(前年同月比8.6%減) の350万1千㎡、RC造が6.4%増(51.3%増)の232万㎡、 SRC造は、48.3%減(73.0%増)の12万7千㎡。 鉄骨需要量は、S造が前月比8万4800㎡減(前年同月比2 万7600㎡増)の35万100㎡、SRC造は、5950㎡減(2650㎡ 増)の6350㎡。全体で9万750㎡減(3万250㎡増)の35 万6450㎡だった。</p>
<p>3. 輸出入動向</p>	<p>2022年8月鋼管輸出量</p> <p>総計無鋼管：2万1,561 トン (前月比 ▲13.5%) 溶接鉄鋼管：2万 363 トン (前月比 +9.5%)</p> <p>2022年8月鋼管輸入量</p> <p>総計無鋼管：1,517 トン (前月比 ▲2.9%) 溶接鉄鋼管：7,232 トン (前月比 ▲23.6%)</p>	<p>8月月の輸入通関実績は31千トン(前月比+9.6%、+2カ 月連続の増加)。韓国が30千トン(同+8.3%)、中国が0.1 千トン、台湾が1.4千トン。22年8月の鉄鋼輸出実績は 231千トン(前月比+5.2%、+2か月連続の減少)。台湾 11 千トン(同+68%)、やタイ8千トン(同+42%)で増加したが、 主力の韓国69千トン(同+20%)や中国61千トン(同 +2.7%)の減少が大きく影響した。前年同月比では +4.7%となった。</p>	<p>2022年8月の輸入通関実績は31千トン(前月比+9.6%、+2カ 月連続の増加)。韓国が30千トン(同+8.3%)、中国が0.1 千トン、台湾が1.4千トン。22年8月の鉄鋼輸出実績は 231千トン(前月比+5.2%、+2か月連続の減少)。台湾 11 千トン(同+68%)、やタイ8千トン(同+42%)で増加したが、 主力の韓国69千トン(同+20%)や中国61千トン(同 +2.7%)の減少が大きく影響した。前年同月比では +4.7%となった。</p>	<p>輸出 異形丸鋼 8月の輸出量は、2万4291トで前月比 12.0%減少した。前年同月比では64.5%の大幅減少。平均価 格は、8万8871円で前月の9万2434円からさらに3563円 下落し、9万円を割った。 形鋼 (形鋼以外も含む) 前月比25721ト減の38215ト 前年同月比16910ト減少。 輸入 形鋼 (形鋼以外も含む) 前月比882ト増の1705ト 前年同月比511ト増。</p>
<p>4. 海外市場動向</p>	<p>ウクライナ侵攻により、欧州におけるロシア産ガスの代替 供給源の確保が、喫緊の課題になって居り、欧州・北ア フリカ・中東でのガスの掘削活動の動きが活性化しつつあ り。又、北米でもOil & Gas 産業への資金投下の動きが活 性化により、掘削活動が活発化、油井管需要増加となり、 油井管市況も上昇している。</p> <p>また、原料価格が落ち着きを見せ始めており、米国の金利引 き下げ及び中国のゼロコロナ政策の継続により、世界経済の 不透明感が出て来ている中、油面に限っては今後一本調子の 強気相場から、80-90\$/bのレンジに落ち着くことが想定さ れており、その影響で油井管市場も今後は少し落ち着いた動 きとなると思われる。ただし、ガスの開発は前倒しで進めら れる動きが継続される可能性が高く、ガス開発で使用される ステンレス鋼管以上の高級品に関しては、供給サイドの統 合・集約が進んだこともあり、引き続き Security of Supply を意識し、価格より量と納期の確保を優先する傾向が継続す ると想定される。</p>	<p>韓国メーカー3社の22年1-8月 厚板販売量は5,921 千トン(前年同期比+0.9%)、国内販売量は4,608千 トン(同+3.0%)と増加したが、輸出販売量は1,313千 トン(同+5.7%)と減少。足元 国内の造船メーカー の需要減少により今後 海外向け販売にシフトして いく懸念あり。中国は22年8月の粗鋼生産量が14 カ月ぶりに前年同月比(8,387万トン、+0.5%)。ま た、国慶節連休後の政府景気対策による需要回復に 期待も、不動産不況、ゼロコロナ政策による需要低 迷の影響が強く、本格的な需要回復までには時間が かかる見通し。</p>	<p>中国 政府の景気対策で公共事業が動き出し、建材 需要は下支えされているが、鉄鋼内需で最大のセ クターを占める民間の不産産は極めて低調となっている。 韓国 鉄筋棒鋼は輸入が減少し、流通業者は在庫積 み増しを控えている。そうした中、韓国特殊鉄筋 の新規生産開始を予定した為、鉄筋市況は、下落 ペースが加速している。</p> <p>ベトナム 景気回復が遅れる中国向け輸出が不振 だったこと、原料高影響・季節的要因で国内建設工 事が停滞したことなどから、主力の建設鋼材の需要 は落ち込んでいる。</p>	<p>輸出 異形丸鋼 8月の輸出量は、2万4291トで前月比 12.0%減少した。前年同月比では64.5%の大幅減少。平均価 格は、8万8871円で前月の9万2434円からさらに3563円 下落し、9万円を割った。 形鋼 (形鋼以外も含む) 前月比25721ト減の38215ト 前年同月比16910ト減少。 輸入 形鋼 (形鋼以外も含む) 前月比882ト増の1705ト 前年同月比511ト増。</p>

鉄鋼流通問題懇談会（2022年10月）

発表者 発表項目	メーカーク JFEスチール
1. 需給動向（景況感）	<p>(国内)・10月の日銀短観では企業の景況感を表す業況判断指数(DI)が大企業・製造業で前回(6月)調査比▲1の+8と、3期連続の悪化。供給制約が徐々に改善している自動車などで改善したが、為替影響を含む原材料価格の高騰を受け素材業種を中心に悪化し、全体を押し下げた。先行きについては+9と1ポイントの改善。輸出産業を中心に円安がメリットとなることや、販売価格への転嫁が進むことが見込まれることから若干であるが改善した。22年度設備投資計画は大企業では前年度比+21.5%。良好な企業収益環境のほか、経済活動の正常化が進展することへの期待感からウィズコロナ経済活動の適応や、DX、環境規制など、設備投資意欲は強い状態が継続している。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・家計部門については、8月小売業販売額は前年同月比+4.1%と6ヶ月連続の上昇。前年のような行動制限も無く、消費が押し上げられた。 ・製造部門では7月四輪車生産は前年同月比▲4.2%と12か月連続の減少、8月の機械受注は▲5.8%と3か月振りの減。 ・建築部門では7月の全建築物建築着工床面積は1,125万㎡(前年同月比+5.5%)と2か月連続の増加となった。非居住用が堅調。 <p>(海外)・コロナ禍からの回復基調は継続も、中国経済が不調な中で、ウクライナ情勢の長期化等に伴う物価高(インフレ)や欧州でのエネルギー問題、また欧米主要国の金融引き締めなどが顕在化し、世界経済は押し下げられている。</p> <p>米国：物価高や住宅ローン金利上昇による住宅投資減速等もあり、4-6月は2四半期連続でマックス成長。先行きも利上げ影響の懸念あり。</p> <p>欧州：物価上昇に加え、ロシア・ウクライナ影響による住宅投資減速等もあり、先行き不透明感は増している。</p> <p>中国：政府景気対策による個人消費の回復は見られるが、不動産分野低調は継続。回復は力強さを欠く。ゼロコロナ政策堅持もリク。</p> <p>ASEAN：今後、海外減速による輸出減は不可避であるが、観光業の回復や資源高の恩恵もあり、2022年は巡航速度の成長を維持。</p> <p><国内鉄鋼需給></p> <ul style="list-style-type: none"> (生産) ・22年9月の粗鋼生産は714万tと前年同月比で9ヶ月連続の減少。 (出荷) ・8月の普通鋼国内向け出荷は295万トンと7ヶ月連続の減少。 (在庫) ・8月末の普通鋼鋼材国内向け在庫は599万トン3ヶ月ぶりの増加。 ・8月末の薄板3品在庫は447万トン(前年同月+10万トン)季節パターンからは小幅な増加に留まるが、依然高位。 ・8月末の厚板シャヤー在庫は48万トン12か月連続の増加。
2. 需要産業動向	<p>[建築] ・8月の新設住宅着工戸数は7.7万戸(前年同月比+4.6%)で4ヶ月ぶりの増加。貸家と分譲で増加。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・非住宅着工床面積は397万㎡(同+27.0%)で3か月連続の増加。製造業、情報通信、医療福祉等で増加。 <p>[自動車] ・9月の国内販売(輸入車除く)は36.3万台(前年同月比+27.6%)。15か月振りの増加。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・8月の完成車輸出は29.4万台(同+16.7%)で8か月振りの増加。 ・8月の四輪生産(速報)は69.9万台(同▲4.2%)で12ヶ月連続のマイナス。 <p>[造船] ・9月の新造船受注量は52万GT受注。上期では前年同期比▲22%であるが、手持工事は2,126万GTと2千万台を維持。</p>
3. 輸出入動向	<p>[輸出] ・8月の全鉄鋼輸出は251万トン(前年同月比▲15%)で2ヶ月連続の減少。韓国、中国、タイ向けで減少。</p> <p>[輸入] ・8月の鋼材輸入(普通鋼・ステン鋼・その他金鋼計)は38万トン(前年同月比+25.5%)で4か月連続の増加。</p>
4. 海外市場動向	<ul style="list-style-type: none"> ・8月の世界粗鋼生産は1億5,680万トン(前年同月比▲3%)、前月比では+0.9%と13ヶ月ぶりに前月を上回った。 ・9月の中国粗鋼生産は8,695万トン(同+17.6%)。前月比では+4%と3か月連続の増加。但し、1-9月では▲3%と粗鋼抑制継続。 ・8月の中国鋼材輸出は615万トン(同+22%)。前月比では減も依然高位。内需停滞が確認出来る。 ・中国市中在庫は、10月14日時点で1,078万トン。粗鋼生産減影響もあり、比較的低位で推移。